



2025年7月28日

各 位

会 社 名 アストマックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 本多 弘明
(東証スタンダード・コード 7162)
問合せ先 執行役員 西潟 し の ぶ
電 話 03-5447-8400

**2026年3月期第1四半期連結業績速報値と2025年3月期第1四半期連結業績との
差異見込みに関するお知らせ**

2026年3月期第1四半期の連結業績は、2025年8月1日（金）に開示の予定ですが、決算の概要がまとまりましたので、下記のとおり速報値としてお知らせいたします。なお、速報値につきましては、現時点で当社が合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は速報値と異なる可能性があります。

この結果を受け、2026年3月期第1四半期（2025年4月1日～2025年6月30日）と2025年3月期第1四半期（2024年4月1日～2024年6月30日）の業績に差異が生じる見込みとなりましたのでお知らせいたします。各セグメントの概要説明は、8月1日に開示する2026年3月期第1四半期決算短信にてお知らせいたします。

記

1. **2026年3月期第1四半期連結業績速報値（2025年4月1日～2025年6月30日）**

（単位：百万円）	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益
2026年3月期第1四半期 連結業績速報値	4,389	2	△10	△17
2025年3月期第1四半期 連結業績（実績）	3,533	349	323	284
増減率（％）	24.2	△99.3	-	-

※ 当第1四半期連結累計期間の営業収益における電力取引関連事業に係るヘッジ目的で行う電力先物取引による影響は以下のとおりです。

当第1四半期連結累計期間を越えて受渡しが行われる電力現物先渡取引は時価評価の対象ではありませんが、当該取引をヘッジする目的で行う電力先物取引はデリバティブ取引として時価評価の対象となります。電力先物取引に関して、一部の3か月を超える複数限月に跨る電力先物取引のポジションについて、期末が近づいた段階で決済が行われ、当該ポジションはより短期の限月にされる形で再構築されます。

これに伴う決済利益52百万円（純額①-1）と、当第1四半期連結累計期間末を越えて限月を迎える電力先物取引の時価評価損119百万円（純額①-2）は、当第1四半期連結累計期間末を越えて受渡しが行われる電力現物先渡取引と同一の会計期間に認識されないため、純額では当第1四半期連結累計期間の営業収益を押し下げ、電力取引関連事業のセグメント利益を減少させる要因となっております。

一方、同様の理由で、当第1四半期連結累計期間に受渡しが行われる電力現物先渡取引をヘッジする目的で行われた電力先物取引に係る前連結会計年度に認識された決済損失134百万円（純額②-1）及び時価評価益8百万円（純額②-2）は当第1四半期連結累計期間の営業収益を押し上げ、電力取引関連事業のセグメント利益を増加させる要因となっております。

上記①と②を総合すると、結果として当第1四半期連結累計期間の営業収益とセグメント利益はそれぞれ合計58百万円（58＝52（純額①-1）-119（純額①-2）+134（純額②-1）-8（純額②-2））押し上げられております。

2. **2026年3月期第1四半期連結業績速報値と2025年3月期第1四半期連結業績との差異の理由**

電力取引関連事業において、電力取引受注が堅調に推移し取引数量が大きく伸びたことによる大幅増収を背景に、営業収益は前年同期間比24.2%増加の大幅増収となりました。

一方、ディーリング事業において前連結会計年度末に生じていた裁定取引における市場の歪みが拡大したことにより評価損失が増加したこと等を受け、営業利益はほぼゼロの水準に、経常損益は小幅ながら損失となりました。なお、当該市場の歪みは、縮小の目途が立ってきております。

以上